

講義名	財務会計論 (経営学科)			授業形態	
担当教員	米栖 正利	開講期・曜日・時限	後期 月曜日 2時限		
		単位数	2	履修開始年次	2年生

主題と概要

会計学の基本事項を講義します。具体的には、貸借対照表と損益計算書の内容とそれぞれの役割を説明します。

到達目標

毎回の講義内容(ポイント)を、専門用語の意味をできる限り丁寧に説明できることを含めて、1,000文字程度に要約できることです。この要約力が改善されることによって下記の三つの目的を現在よりも高い水準で達成できることを目指します。

- (1) 簿記の知識の習得をできるようにする。
- (2) 財務会計の基礎知識の習得をできるようにする。

提出課題

毎回の講義内容に関するレポート課題をResponを通じて作成・提出してもらいます。

課題(レポートや小テスト等)に対するフィードバックの方法

講義時間の最初の10分程度で前回の講義内容やレポート課題のポイントを解説します。

評価の基準

し毎回の講義で実施する課題レポートの提出状況(内容の理解度と文章力)で総合的に評価する。

1回のレポート課題に対して7点満点を配分し、15回の講義回数に対して105点満点を最終的に100点に修正して最終評価を確定する。

なお、理由を問わず欠席も含むレポート課題未提出は1回について8点減点する。したがって、毎回の講義内容に関するレポート課題を期日通りに提出してください。

なお、レポート課題実施回数の1/3以上のレポート課題を提出しない履修者を「履修放棄」と判断し、最終評価を確定します。

履修にあたっての注意・助言他

出来る限り平易な言葉を用いて会計学の内容を講義します。ただし、会計学を学ぶにあたって、専門用語や概念をできる限り平易な表現を心掛けるものの、簡単な表現はできないことを予め覚悟しておいてください。つまり、抽象的な概念を理解することが不得意であれば、読解力が弱いことと語彙が不足していることを意味します。これらの問題を改善しない限り、抽象的な表現を理解することが困難なままです。

加えて、会計学を学ぶにあたって簿記ができるか否かは基本的に関係ありません。しかしながら簿記技法の「考え方」をまったく知らないと、会計学を学ぶことがむづろに困難であることも理解しておいてください。

講義内容に関するレポートは手書きで作成します。スマートフォンを使って検索し、レポートの大半をコピーペーストする書き方ですしかし考えないのであれば、何のために履修するのかを考えるべきです。講義を見ているだけや聞いているだけでは、講義内容を注意深く聞きながらノートをとったり、考えることで理解力が改善されます。

教科書

.使用しない。

参考図書

.なし。

その他

必要な教材や補助資料をPortalにアップします。

授業計画

第1回:
1.講義内容と進行手順に関する詳説

2.財務会計の基礎

会計学は簿記技法と表裏一体の関係にあります。いわゆる会計思考(考え方)を理解するには簿記技法の「仕組み」を理解することが重要で、会計思考を徹底で学べる計算構造を数回にわたって丁寧に説明します。難解ではないものの、非日常的な発想なので、理解しづらいことを踏まえ、出来る限り易しく丁寧に説明・解説します。簿記技法を既に理解していても、軽視せずに学習してください。

[予習]: 配布資料(Portalにアップします)を読み専門用語を含む理解が困難な言葉を調べてください。抽象概念を扱いますので、まずは、主語述語の関係を確認しながら、会計学を説明する文章構造を理解することを意識してください。

難しいと感じることの要因は、用語の意味を理解していないことと、用語の関係が理解できにくくなることにあります。は新しく学習する事項なので、復習を重ねることで軽減する一方、は復習を重ねて理解力が高まるにつれて難しくなる傾向にあります(60分)。
[復習]: 専門用語の意味を確認すると同時に、主語述語の関係を意識しながら会計学を記した文章を読み直してください。予習段階と受講前と比較して理解力が格段に改善していることを実感できると思います。ゆとり熟読しながら、初出の言葉を調べて読み進めてください(180分)。

第2回: 簿記技法と会計学の関係: その1

会計学が簿記技法と表裏一体の関係にあることを確認するために、簿記技法(計算構造)を会計学を意識して再確認を行います。簿記学習と異なり、「意味」があって計算構造が出来上がっていることを学んでください。簿記と一致の原則、加算の原理、そして高次の意味を講義します。
[予習]: Portalにアップしている配布資料を引き続き読み込み、専門用語の内容を理解し、これらを定着させることを心がけてください(60分)。
[復習]: 簿記技法(計算構造)に「意味」があることを講義しましたので、これらの学習事項を意識しながら配布資料を読み直してください。専門用語の意味と計算構造との関係がイメージしやすくなると思います(180分)。

第3回: 簿記技法と会計学の関係: その2

第2回の講義内容の復習を行いながら、借借対照表等式と損益計算書、認識と測定の意味を講義します。

[予習]: Portalにアップしている配布資料を引き続き読み込み、専門用語の内容を理解し、これらを定着させることを心がけてください(60分)。

[復習]: 簿記技法(計算構造)に「意味」があることを講義しましたので、これらの学習事項を意識しながら配布資料を読み直してください。専門用語の意味と計算構造との関係がイメージしやすくなると思います(180分)。

第4回: 簿記技法と会計学の関係: その3

第2-3回の講義内容の復習を行いながら、借借対照表等式と損益計算書、認識と測定の意味を講義します。

[予習]: Portalにアップしている配布資料を引き続き読み込み、専門用語の内容を理解し、これらを定着させることを心がけてください(60分)。

[復習]: 簿記技法(計算構造)に「意味」があることを講義しましたので、これらの学習事項を意識しながら配布資料を読み直してください。専門用語の意味と計算構造との関係がイメージしやすくなると思います(180分)。

3. 貸借対照表論

貸借対照表論は会社の財産評価を適切に行い、これをどのように表示するかという問いに対する「解答」を論じると解釈できます。本講義は計算原則を支える評価に関する考え方を詳説します。

第5回: 資産: 財産評価-その1

貸借対照表項目を包括する(会社)財産評価の意味と資産概念との関係を論じます。

[予習]: Portalに次の教材(配布資料)をアップします。引き続き、抽象概念を扱いますので、専門用語の辞書的な意味を事前に確認しておいてください。講義では表面的な意味を確認しながら、専門用語の「背景」を丁寧に説明し、専門用語のもつ「奥深さ」を学修してください。
[復習]: 抽象概念の理解のために講義毎の復習を行ってください(120分)。

第6回: 資産: 財産評価-その2

認識と測定概念を復習し、財産評価との関係を講義します。

[予習]: Portalに次の教材(配布資料)をアップします。引き続き、抽象概念を扱いますので、専門用語の辞書的な意味を事前に確認しておいてください。講義では表面的な意味を確認しながら、専門用語の「背景」を丁寧に説明し、専門用語のもつ「奥深さ」を学修してください。
[復習]: 第3-4回の講義内容の確認を行いながら、配布資料の内容理解に努めてください(120分)。

第7回: 資産: 財産評価-その3

会社財産の一つである有形固定資産に付与された役割を理解しながら、当該役割に基づく評価方法とその理由を説明します。

[予習]: 有形固定資産という概念とその減価(費用)との関係を(会社)財産評価との関係で講義します。専門用語のもつ「奥深さ」を示唆する損益計算の意味を学修してください。

[予習]: Portalに次の教材(配布資料)をアップします。引き続き、抽象概念を扱いますので、専門用語の辞書的な意味を事前に確認しておいてください。講義では表面的な意味を確認しながら、専門用語の「背景」を丁寧に説明し、専門用語のもつ「奥深さ」を学修してください(120分)。
[復習]: 第3-4回の講義内容の確認を行いながら、配布資料の内容理解に努めてください(120分)。

授業形態(アクティブ・ラーニング)

<input type="radio"/> ア: PBL(課題解決型学習)	<input type="checkbox"/> イ: 反転授業(知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)
<input type="checkbox"/> ウ: ディスカッション、ディベート	<input type="checkbox"/> エ: グループワーク
<input type="checkbox"/> オ: プレゼンテーション	<input type="checkbox"/> カ: 実習、フィールドワーク
<input type="checkbox"/> キ: その他(A・L型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合)	

講義

卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

目標(1)-(3)を達成することで、DP(1) - に貢献できる。各業界の動向や問題点について、会計の観点から理解する基礎知識を身につけることができる。これをもとに、会計や財務という観点から企業マネジメントに関する基本的な課題発見が可能となることが期待される。授業計画の第1回目から第15回目の講義内容全体が、各業界の動向や問題点を会計の観点から理解するための基礎知識の習得に関連していることから、DP(1) - に関連的であるが貢献している。

*すみません、DPファイルが不明のため繰り返し添付ファイルで提供してください。
また、目標(1)と(2)を達成することで、即(2) - に貢献できる。簿記の知識を蓄えに行い、その知識を踏まえて財務会計の基礎知識の習得を行うことから、企業の財政状態や経営成績等に関する情報について、基本的な分析が可能となる。ただし、高度な財務分析および財務諸表の作成に関しては貢献しない。

双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述

実務経験の有無及び活用

実務経験なし

備考